

生物科学科（生物学専修）教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

理学部生物科学科（生物学専修）では、学位授与水準に定めた能力を持つ人材を育成することを目標として、以下のとおりカリキュラムを編成し、実施します。

- ・主に1年次学生を対象とする全学教育科目では、専攻する分野にかかわらず、本学の学生であれば当然身につけておかなければならない共通の素養として、高いコミュニケーション能力、人間や社会の多様性への理解、独創的かつ批判的に考える能力、社会的な責任と倫理を身につけることを目的として、カリキュラムを編成しています。具体的には「一般教育演習」、「総合科目」、「主題別科目」、「外国語科目」、「外国語演習」、「共通科目」に区分される教養科目（コアカリキュラム）を開講します。また、専門科目を学ぶ心構え、基礎知識を身につけることができるように、基礎科目を開講します。
- ・2年次以降では、生物学に関する専門性を深めるため、学部専門科目を開講します。
- ・2年次では、まず、生物学の基本概念を理解し、データ解析に必要となる理論や技術的手法を身につけることができるように、分子・細胞から個体・集団レベルまでの生物学の基礎分野の講義と総合的な実習を開講します。また、生物学において日常的に必要なライティングとプレゼンテーションのスキルを実践的に学ぶ科目も開講します。さらに、自然科学の広い分野を理解するため、他学科が開講する理学部共通科目の履修を選択必修とします。逆に、他学科の学生に現代生物学の概要を理解させるため、オムニバス形式で各担当教員の専門分野における最新の話題を紹介する講義を開講します。
- ・3年次では、2年次に学修した内容に基づいてさらに深く生物学の各分野を学ぶことができるように、専門分野の講義と実習を開講します。
- ・4年次では、基本的に、各研究室において特定の研究実習テーマに取り組み、研究姿勢および技術的手法を修得するとともに、複眼的に分析する論理的思考力、修得した知識と技術を基盤とする問題解決力、既存の考えにとらわれない論理的・批判的思考力、成果をわかりやすく伝える発表能力を養成します。

学習成果の評価の方針

I 成績評価の基準

1. 成績評価にあたっては、本学部の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）に掲げる本学科の「養成する人材像に求められる具体的な能力（学位授与水準）」を踏まえ、授業科目ごとに「到達目標」を設定し、履修者の「学修成果の質」（達成度）に応じ

て行うこととします。

2. 講義および実習の科目に関する成績評価は、「A+」、「A」、「A-」、「B+」、「B」、「B-」、「C+」、「C」、「D」、「D-」、「F」の11段階とし、基本的には絶対評価とします。ただし、「A+」の割合の目安は履修者の上位5%とします。
3. 授業科目ごとに適切な「到達目標」が設定されており、当該「到達目標」に基づく成績評価の結果を学期ごとに検証し、必要に応じて検討します。

II 成績評価の方法

1. 成績評価は、試験結果、レポート評価、成果発表（プレゼンテーション）、学修態度等により行います。
2. 授業への出欠状況を単に点数化し評価に用いることはありません。
3. 具体的な評価方法は、授業担当教員が定めます。